



アメリカ ロサンゼルスメストネック博士 スタディツアー旅程表 (4/27~5/3) 定員 25名

日程 (2015年)	内容 (詳細はご参加お申込み後、冊子でお渡しいたします)
4/27 (月)	関西国際空港 集合 夕刻 (17:40 予定) の飛行機でロサンゼルス国際空港へ 同日 お昼 (12:00 予定) 到着 メストネック博士 のお迎えでホテルへ (全日、夕食は参加者皆様と夫妻でとります!)
4/28 (火)	メストネック博士 研究所にて講座&工場見学 (研修の内容確認も行ないます)
4/29 (水)	現地の保育園 視察 (2園を予定)
4/30 (木)	ワークショップ&質疑応答研修
5/1 (金)	本場ユニバーサルスタジオで、ハリウッドを堪能していただきます!
5/2 (土)	ロサンゼルス国際空港 夕刻 (14:30 予定) の飛行機で関西国際空港へ
5/3 (日)	夜 (19:00 予定) 関西国際空港 到着 お疲れ様でした^^

※予定は変更になる場合がございます。 研修費用：29万円 ※為替により変更になる場合がございます。



お申込み 06-6773-3008 へFAXをお送りください。

ふりがな
お名前： _____ 勤務先 _____

〒 _____

ご住所： _____ (職場/ご自宅)

電 話： _____ FAX _____

※2015年4月27日~5/3日 サンゼルス(アメリカ)研修への参加 (する/検討したい/しない) Oをおつけください

○お申込み後、研究所までのアクセスマップと郵便局で、
お支払いいただく振込取扱表をお送りいたしますのでご確認の上、ご入金ください。
お問い合わせはNPO法人国際臨床保育研究所 カツヤマ まで

NPO法人国際臨床保育研究所認定 特別支援保育者 高度で専門的な知識と技能を持った 連続講座 発達障がい(自閉症スペクトラム症)児 特別支援保育者養成講座(全3回)

—講座終了後、認定書を授与します—

急増する発達障がい(自閉症スペクトラム)児「1960年代は1万人に4人、2000年には1万人に40人の割合で自閉症と診断された、と米国保健管理センター発表」されました。日本では「全国の発達障がい児61万3000人と文部科学省発表(2012年12月5日)」の調査報告です。保育現場にも毎年、発達障がい児の入園希望が増え続け、専門的な知識と確かな技能を持った特別支援保育者が求められています。

※講座内容は全てドイツ、ニュージーランド、アメリカからのライセンス(著作権)獲得で構成されたプログラムです。
(NPO法人国際臨床保育研究所が日本語圏内の使用・販売権の権利を所有しています。)



こちらの連続講座受講者様特典として、4/27~5/3までの米国ロサンゼルス・メストネック博士研究所スタディツアーに優先的に申し込みいただけます。
(希望者のみ)

第1回 4/19 (日)

10:30-12:00 **精神科に訪れる子どもたち**
～ 医療の立場から診た発達障がい児 ～

講師/近畿大学医学部精神神経科講師 医学博士 辻井 農亜

多くの発達障がい児が大学病院の精神科を訪れています。精神科の先生方は、発達障がい児の問題は医療現場だけでは解決できない、保育園や学校、地域とのネットワークが必要だと言います。それだけに、私たちが医療で行なわれる、発達障がい児の治療や投薬、医師からの助言を知ることが大切です。

13:15-14:45 **これからの特別支援は発達予測と発達予防です**
～ 発達障がいに関心を持って早く気づいて早く支援してあげる～

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 所長 社会学博士 辻井 正

発達障がいの特長は、乳幼児期早期に兆候が現れるために、早く気づけば早く予防することが出来ます。さらに、現在、受け入れている子どもをどのように保育するかだけでなく、これからどのような発達を目指すのか発達予測も可能です。発達予防と発達予測の考え方を話します。

15:00-16:00 **見る、聞く、触れるから獲得する知能領域**

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 おもちゃセラピスト 勝山 ゆむ
解説/所長 辻井 正

実技講座:教具を使った指導方法

発達障がい児の指導には、子どもの好きなよう遊ばせるだけでなく、保育者による目的のある遊びと意図的な指導が欠かせません。

・グループ遊びの指導・セラピー教具「秘密の箱」の遊び方・臭覚遊びの指導

特別講座として、4/27-5/3
までのアメリカ研修へご参加
いただけます(ご希望者のみ)



第2回 5/17 (日)

10:30-12:00
保育室で観察する遊びによる(機能的)発達検査法 0歳~5歳

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 所長 社会学博士 辻井 正

現在行われている子どもの発達を評価する方法は、医療的な検査、比べる発達テストが中心ですが、多くの発達のリスク(危険因子)のある子どもは見逃されています。それ故に、子どもの遊びの動作から評価する機能的検査法が注目されて来ました。

ミュンヘン大学ヘルプツリケ博士による「ミュンヘン機能的検査法(日本語版著作権)」を基にした、遊び(機能的)の観察法を実践的に解説します。

13:15-14:45
発達障害のリスクがあるとわかれば、二つの支援方法が必要です

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 所長 社会学博士 辻井 正

二つ支援法とは、一つ目は、発達障がいは子どもの個体の問題であり表現方法である故に、個別の発達支援が求められます。もう一つの支援は、発達障がい(自閉症スペクトラム症)児が一様につまずいているのは「ものや人との関わり」故に、保育集団生活が必要です。

それ故に、保育のハードルを低くしてあげる必要があります。発達障がい児が保育に受け入れるということは、従来の保育のシクミを見直すことにもつながります。

15:00-16:00 **指先の巧緻動作と視覚から獲得する知能領域**

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 おもちゃセラピスト 勝山 ゆむ
解説/所長 辻井 正

実技講座:を保育素材や教具を使った指導方法

子どもは興味あるものを見つけたり、たずねられたりすることを指し示すときに、人さし指一本を美しく突き出しますが、発達のなのおくれのある子どもはしばしば、指さしをしない、或いは数本の指でさし示しています。指先を使うことは単なる動作ではなくて、意味のある(原言語)しぐさです。巧緻動作と呼ばれる指先の使い方、ピンセットつまみ等を具体的な素材を使った遊び方の実践を行ないます。

第3回 6/14 (日)

10:30-12:00 **一でこぼことした発達の子供たち**

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 所長 社会学博士 辻井 正

発達障がい児の多くがつまずくのは、感覚受容の問題です。前庭系と呼ばれる運動野の未熟さから引き起こされる多動性の問題を話します。さらに見る、聞く、読み取る等の感覚受容を理論的に講義し、小学校に行くまでに必要な学習スキルを学んで頂きます。

13:15-15:00 **一幼児期の感覚統合の実践法一**

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 辻井 明(ニュージーランドPMPコース修了)
解説/所長 辻井 正

実践テクニック:反射運動抑制、左右感覚、平衡感覚機能、粗大動作と巧緻動作

多くの保護者や保育者は、子どもが小学校に入ると、じっと椅子に座り先生の話を聞き、自分で教科書を開くものだと信じていますが、ニュージーランドで行なわれた調査では、30%近い子どもはじっと座っていません。子どもの多動性、聞く力、視覚的な判断は、脳の前庭系と呼ばれる感覚受容器との関連が分かってきました。これらを成熟させる感覚運動を実践的に紹介します。

15:15-16:00 **一分類遊びから獲得する概念形成一**

講師/NPO法人国際臨床保育研究所 おもちゃセラピスト 勝山 ゆむ
解説/所長 辻井 正

実技講座:教具を使った指導方法

発達障がい児の指導はビジュアルに具体的に行なうことが大切です。特に、ものの理解力である認知は、ものごとの関連性(有機的)から身につけます。それ故に、保育素材を使って、ものごとの関連させて、その中から共通性という概念を理解させます。概念と呼ばれる認知力は言葉やペーパーでは教えられません。具体的な素材を使った遊びから獲得するものです。

お一人: 30,000円 お願い: こちらの講座は3回を同じ先生に受講していただく内容となっております。ご了承ください。